

私立 岡山理科大学

取組名称 地方理工系大学における迅速で組織的な就職支援システムの構築

取組担当者 就職部長 榎本 豊

1. 本学の概要

岡山理科大学は、1964(昭和39)年4月に開学し、理学部応用数学科、化学科が設置された。その後、1986(昭和61)年に工学部、1997(平成9)年に総合情報学部が設置された。

現在は、理学部、工学部、総合情報学部がある理工系大学であり、計4694名の学部学生が学んでいる。さらに、大学院修士課程、大学院博士課程、教職特別課程在籍の学生を含めると、5,045名の学生在籍数となる。

本学では、「一人ひとりの若人が持つ能力を最大限に引き出し、技術者として、社会人として、社会に貢献できる人材を育成する」を教育理念としている。理学部では、自然科学の基礎知識を習得し、実践する能力を有する人材の育成を教育研究上の目的としている。工学部では、講義・実験・実習等を通して、ものづくりの理論と技術を身につけるとともに、卒業研究等を通して先端技術・研究を体感し、地球的視野から多面的に物事を理解し判断し得る能力と倫理観を備えた技術者の育成を教育研究上の目的としている。総合情報学部では、人間・社会と自然について情報科学を核として教育研究を行い、これによって、環境と調和しながら持続的発展を目指す高度情報化社会の実現に貢献できる人材の育成を教育研究上の目的としている。

2. 本取組の概要

学生の就職活動において、現行の大学独自の就職ガイダンスやキャリア教育科目、就職部発行の就職支援雑誌、保護者との就職進路懇談会、企業懇談会等の情報や、在学生・卒業生の就職活動情報を機能的に活用するため、全ての情報をデータベース化した就職支援システムを構築し、メーリングシステムによるリアルタイムな情報発信や土日・休講期間における学生からの情報受信体制の整備により、内定取消し等に対応した迅速な就職支援体制を整え、就職活動における地方のハンディキャップを情報技術により補うことを目的

とする。

特に、理工系大学としての情報基礎能力を生かして、データベースの情報共有を学生と就職部だけでなく全教員や企業にも組織的に拡大し、それぞれが双方向かつリアルタイムに連携することで、学生の就職活動満足度の向上や高い就職内定率が期待され、結果として学士力が確保されると確信する。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 取組の趣旨・目的

学生の就職活動において、学生と就職部だけでなく教員や企業が、それぞれ双方向で土日や休業期間中においても、リアルタイムに連携できる就職支援体制を構築し、理工系学生の情報基礎能力を生かすことで、大学独自に開講しているキャリア教育科目や双方向形式ガイダンス・セミナー、心のケアを含む就職活動のフォローアップを拡充し、学生の学士力の確保を目指す。

(2) 達成目標

本取組では、個々の学生の学士力確保による就職活動での筆記試験・面接能力の向上及び、就職支援における内定取消し等に対する迅速な対応を目標とし、本取組で構築する就職支援システムを活用することにより、就職活動満足度(図1)の向上と高い就職内定率

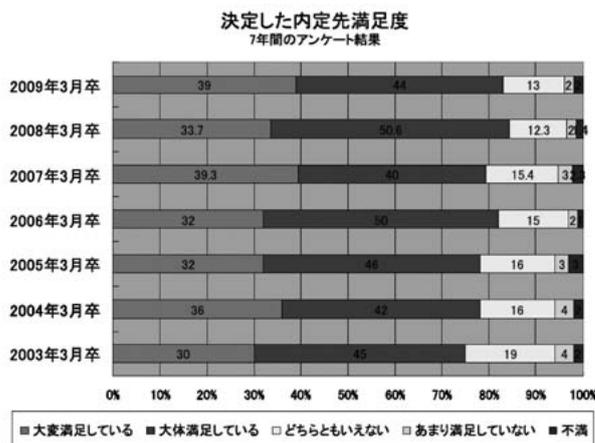


図1 就職活動満足度

の達成を図ることを目標とする。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 具体的内容・実施体制

(i) 取組の具体的内容

独自の就職支援雑誌や双方向形式ガイダンスの充実を図るとともに、ガイダンス内容の動画配信システムを構築し、就職部のホームページやメーリングシステム、就職支援システムの活用と学生用の閲覧端末の整備により、個々の学生の就職活動状況を全教職員がリアルタイムに把握し、教育・指導・心のケアを組織的に行うことで、就職内定率や就職活動満足度の向上を図る。

(ii) 取組の実施体制

学長の直轄機関である就職部及び就職委員会を中心に全教職員が就職支援システムを活用することで、本取組の対象を学生と就職部職員だけでなく教員や健康管理センター、企業、保護者にも組織的に拡大し、それぞれが双方向かつ迅速に連携できる体制となっている。

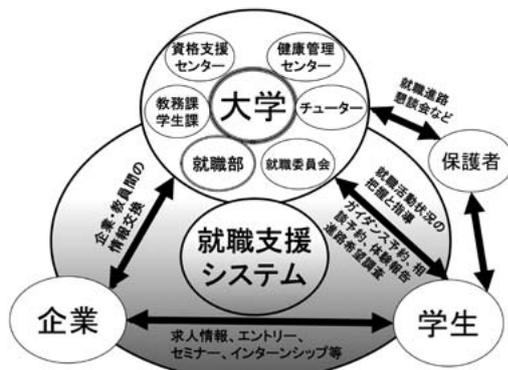


図2 就職支援のイメージ

図2に、就職支援のイメージを示す。学生の就職に関する相談は、就職部職員及びチューター（1年から3年生はクラス担任、4年生はゼミ教員）が行う。また、学生の保護者とは、進路懇談会を本学及び全国8カ所で行い就職部職員とチューターにより面談を行っている。従来は、学生の支援が就職部職員とチューターで一貫しない可能性があったが、就職支援システムの導入により、就職部を含む学生支援部署及び教員がそれぞれリアルタイムの面談履歴機能で情報の共有が実現でき、一貫した支援が可能になる。

(2) 本年度の取組の具体的内容

(i) 就職支援システムの導入・実施及び学生用端末の設置

就職支援システムの中核であるキャリア支援サイトの利用により、電子化された求人票検索システムの活用のみならず、学生及び保護者を含めた面談履歴、就職進路ガイダンス出席状況、在学生・卒業生の就職活動をデータベース化しオンラインで活用できるようにシステムを構築するとともに、それを就職部職員指導の下効果的に活用するために就職部内の学生用フロアにシステム閲覧用端末を年次計画で整備する。さらに本システムでは、学生の就職活動進度に対応したメーリングシステムによる情報発信や携帯電話を利用したガイダンス終了後のアンケートの実施によりリアルタイムな双方向の情報収集が可能になる。

就職支援システムを導入することにより、学生及び保護者を含めた面談履歴、就職進路ガイダンス出席状況がデータベース化されているので、チューターや就職部職員が学生のモチベーションや適性が把握可能で面談対応の改善を図ることができ、学生の就職活動進度に対応したメーリングシステムによるリアルタイムな情報発信により、従来の大学独自メールアドレスの学年毎メーリングリストと比べて学生が有益な情報が容易に得ることができるので、今後の学生の学士力の向上の効果が高まる。



写真1 理大就職ナビのログイン画面

キャリア支援サイトとして、上記仕様を満たす株式会社ディスコ製「ユニキャリア」を選定し、写真1に示すように「岡山理科大学就職支援ナビ」（略称：理大就職ナビ）と名付けた。本サイト利用の利点は企業・大学双方の求人票入力手間の削減やリアルタイムに実現できる求人であるが、問題点として学生に企業の求人姿勢が見えないことである。そこで、就職部では本学に直接または就職懇談会のときに持参された求人票、その後郵送等で届いた求人票を「来校求人」としてフラグを立て、学生が検索する際に参考できるようにしている。また、求人票が掲載された企業に対する過年度の学生の就職活動報告を順次掲載している。

(ii) 動画配信対応Webサーバの導入

動画配信対応Webサーバの導入により、表1に示すような就職進路ガイダンス及びセミナーをビデオに録画し、就職部Web上のコンテンツとして動画配信することで諸事情によりガイダンス及びセミナーを欠席した学生にも対象を広げ展開する。

表1 今年度動画配信予定コンテンツ

2年生対象	就職進路ガイダンス
3年生対象	就職進路ガイダンス
3年生対象	グループディスカッションセミナー
3年生対象	スーツ・マナーセミナー
3年生対象	メイクアップセミナー
3年生対象	エントリーシート対策セミナー
4年生対象	内定者フォローアップセミナー

就職進路ガイダンスを実施し、その映像を就職支援ホームページのコンテンツとして充実を図ることにより、従来は出席した学生のみが就職活動に対応できる学士力確保の機会を得ることができたが、ガイダンス及びセミナーを欠席した学生も学士力の確保を図ることができる。



写真2 学生用端末

就職部フロアの学生用端末に関しては、従来は10年以上前のパソコンで処理が遅く、求人票閲覧に支障をきたしていたため、写真2に示すようにスペースの有効利用とWebによる求人閲覧及び動画閲覧を鑑みてノートパソコン10台を導入した。

(iii) 4年生内定者フォローアップセミナーの開催

4年生対象の内定者フォローアップのための就職支援雑誌(Magazine for Employment: ME) Vol.4(写真3)を発行するとともに、セミナーを11月及び1月に実施し、内定者における卒業後に就職することへの不安について、実際に企業の人事部で新人研修等を担当された方によるマナーや電話対応及び社会人生活の疑似体験でフォローアップを行う。

4年生対象の内定者フォローアップセミナーを行う

ことにより、実際に仕事に就いたときに関わる不安について解消することができるとともに、卒業までの学生の教育・卒業研究等を充実させることにより、学生の就職活動満足度を向上させる。



写真3 MEvol.4



写真4 MEvol.2

(iv) 3年生就職実践模試及び就職適性検査の実施

3年生対象に就職実践模試及び就職適性検査を行い、3年生における学士力及び適性を把握し、本学における学生教育の取組の改善に反映させる。

就職実践模試(写真5)及び就職適性検査により、3年生における学士力及び適性を把握することで、就職支援を行う際の基礎データとして活用でき、調査結果を本学における就職支援の取組の改善に反映し、学生の学士力の確保につなげる。



写真5 模試受験の様子

(v) 2年生就職進路ガイダンスの実施

2年生対象に先輩の就職活動及び企業人事担当者のアドバイスを掲載した就職支援雑誌(MEvol.2:写真4)を発行するとともに、就職進路ガイダンスの実施により、将来何をして生きていくのか意識して毎日を過ごすよう学生生活の充実を図り、動機付けを行う。

2年生においては、就職進路ガイダンス(写真6)を実施し、今後の進路に関する情報の充実を図ることにより、将来に対する意識向上を図ることができ、今後の学生の学士力の向上の効果が高まる。



写真6 2年生対象ガイダンス



写真7 認定証書

(vi) 就職支援に関する外部評価委員会の実施

就職支援に関する外部評価委員会を開催し、本プログラムの就職支援の取組を第三者に評価して頂くこととあわせ、他大学等の就職支援の取組との比較・検討を行う。

就職支援に関する外部評価委員会を開催することにより、本プログラムを学内のみならず、第三者に評価して頂くことで、本補助事業の正当公正な評価につなげることができる。また、そこで得られた他大学で行っている手法との比較等を行い、新たな就職支援の手法の開発、学生の就職活動満足度の評価の在り方を開発し、学生の就職活動の支援の改善に生かす。

(3) 来年度以降の実施計画

来年度以降は、本年度で導入・実施の補助事業を継続するとともに、本年度に実施できなかった新規補助事業を行う。

(i) 就職支援システムの充実

これまでの卒業生の就職活動情報を就職支援システムに移行する。

(ii) 職員のスキルアップのためのスチューデント コンサルタント認定試験研修の受講

この認定試験は、特定非営利活動法人・学生文化創造が行っており、「大学等において、学生支援相談担当者の資質、能力・適性等について一定レベル以上であることを、内閣府認証 特定非営利活動法人・学生文化創造が認定するもの」である。

今年度、計画を前倒しで就職部の学生支援相談担当者3名が受験し、全員合格した。(写真7)

5. 本取組の評価体制・評価方法

(1) 取組の評価体制

本取組では、就職支援に関する外部評価委員会を新

たに設置するとともに、ハローワークに報告している就職内定率や学生・企業を対象に実施している進路・就職に関するアンケートの結果を参考にして、就職支援雑誌、双方向形式ガイダンス及び就職支援システム等の評価体制を構築する。

さらに本取組の進捗状況については、下記Webサイトで随時報告を行っている。

http://www.job.office.ous.ac.jp/gp/index_gp.html

(2) 達成目標に対する達成度についての指標

大学独自の就職支援雑誌、双方向形式ガイダンス、就職支援システムの活用、就職試験対策講座、就職実践模試、就職適性検査などにより、学士力の確保に関わる筆記試験・面接の能力の向上や学生と就職部職員及び教員のそれぞれの連携の強化が可能になることから、昨年度の就職内定率(93%)及び就職活動満足度(83%)をそれぞれ3%及び5%上昇させる。

6. 本取組の実施計画等

本取組では、既卒者を含んだ独自の求人開拓を積極的に行うとともに、入学前から卒業後までの一貫した就職支援を行うため、各学年に応じた就職支援雑誌及び就職先一覧の配付や双方向形式ガイダンスの開催、学生と就職部職員、教員、企業がそれぞれの連携の効果を実証するため就職支援システムの整備を順次行い、就職内定率及び就職活動満足度の向上の達成を目指す。

財政支援期間に行う就職支援システムの導入と旧システムからの情報移行後は、従来の事務作業が軽減され人件費が削減されるだけでなく、その余力をスチューデントコンサルタント資格の受講に充て、職員のスキルアップを行うことで、心のケアを含めたよりきめ細かな学生支援の展開が期待される。